

大学生と小学生の協同による地域の魅力再発見事業 ～七尾市立能登島小学校 5 年生との地域の魅力再発見事業～

団体名●佐藤ゼミナール2年／代表者名●佐藤 将（経済学部経済学科・講師）

はじめに(背景・目的・目標)

石川県農林水産部が「能登の里山里海」の次世代継承の学習事業として行っている「大学生と小学生の協同による地域の魅力再発見事業」であるが、昨年度は参加を予定していたものの、令和6年(2024年)奥能登豪雨により中止せざるを得なかった。そのため、経済学部のゼミナールとして今年度からがはじめての参加となる。

佐藤ゼミナールの連携先は七尾市立能登島小学校の5年生(13名)で、上記で説明した石川県農林水産部に加え、影絵制作のアドバイザーを担う一般社団法人くくむとの協同事業となっている。佐藤ゼミナールからは2年生10名が参加した。

活動内容

本事業では、能登島における地域文化、たとえば向田の火祭や向田地区に古くから伝わる「雨乞い太鼓」といった内容を題材にして地域のふるさと教育につながる活動を実施した。ワークショップは全3回実施した。以下が各回で取り組んだ内容である。

10月15日(水)【1回目(ガリバーマップを使ったリサーチ)】

1回目のワークショップでは、3グループに分かれて、大学生が小学生たちに聞く形で能登島に関する地域情報を共有した。聞いた内容を A1版もしくは A3版の紙地図に書き込み、ガリバーマップの手法によって情報の整理を行った。これを基に次のヒアリング内容を整理した。

11月5日(水)【2回目(ヒアリング調査)】

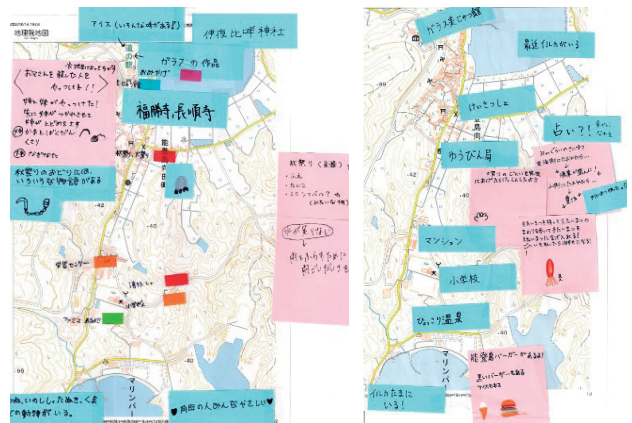
2回目のワークショップでは、1回目のワークショップで整理した内容を基に能登島の地理歴史に詳しい元能登島小学校教員の方や向田の火祭の内容をよく知る地元の方に対してヒアリング調査を行った。ヒアリング調査を通じて小学生が知る情報だけでなくかつて橋がなかった頃の能登島の地域史も知ることができた。

11月18日(火)【3回目(影絵ワークショップ)】

3回目のワークショップでは、2回目までのワークショップで聞いてきた能登島の情報を踏まえて、くくむの影絵師の先生の指導の下、最終的に制作する能登島を題材にした影絵作りに取り組んだ。まずは影絵師の方から影絵に関するレクチャーを受けて、実際に影絵の素材となるものを小学生とともに制作した。ここで制作された影絵の素材は、くくむが制作する実際の影絵動画で使われるものとなる。

今後の課題、展望

本事業を通じて、能登島の地域のことや伝統文化について知ることができただけでなく、小学生との交流によって、こどもの目線から地域社会の問題にも触れることができたのは、今後の地域連携活動、さらには卒業研究を行う上で大きな収穫である。今後もこうした活動を通じて、フィールドワークを通じた地域の理解につなげていきたい。



ガリバーマップ手法による情報整理



ワークショップの様子